

世界へ挑戦

# を見据えたまちづくり

Society 5.0の  
暮らしのイメージ

## 職場スイッチ



複数の仕事に就き、時間の切り売りで個人の能力を最大限発揮。家でもカフェでも、スイッチ一つで切り替わるバーチャル個室で効率化をサポート。

## らくらく送迎



情報通信技術を活用し、マイカー以外の移動をシームレスにつなぎます。一つのアプリなどで、タクシーや電車・バス・自転車など各交通サービスの経路検索や支払いが一括できるように。

## Society (ソサエティ) 5.0とは

国が提唱する未来社会のコンセプトで、AI（人工知能）やロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな社会の姿です。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）といった「人びとが今まで歩んできた社会に続く第5の新たな社会」という意味で名付けられました。

## これまでの社会の違い

Society 4.0とは、私たちが、仮想空間とつながることで情報を得られます。しかし、情報を検索しても知りたい情報にたどり着かない、車のナビでルート調べても最適なルートの判断が難しいなど、有効な情報が見つからない、探し出すのに時間がかかる、などの課題がありました。Society 5.0では、このような課題を、仮想空間と現実の融合によって解決し、より便利で質の高いサービスが提供される社会をめざしています。

## 本邦へ Society 5.0

Society 5.0の社会の実現は、食料問題や人手不足、疫病対策など、世界中のさまざまな課題解決にも期待されていますが、本市でも今後起こりうる課題を予測し、長期的な視点で取り組むことが重要です。特に人口減少・高齢化問題は避けられず、現在約10万人いる人口が2040年には約8万4000人にまで減少することが予想され、年齢分布も高齢化の一途をたどる見込みです。

特に伏見台地域は、市内で最も高齢化・人口減少が進んでいる地域ですが、

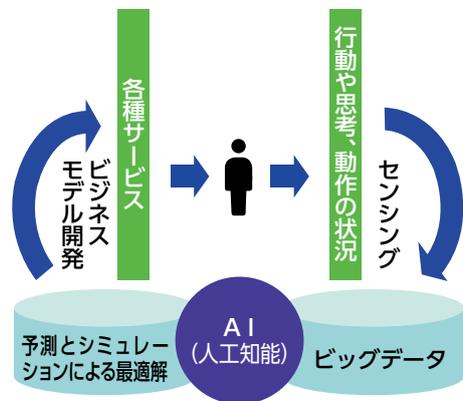
# 池田の未来

## なぜ、今 Society 5.0をめざすの？

Society 5.0とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会のさまざまなニーズにきめ細かく対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といったさまざまな違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」と国の「第5期科学技術基本計画」で定義されています。

少子高齢化が進む現在、労働者人口の減少などの社会問題を解決するためにはAIなどの科学技術がかかせません。Society 5.0の社会では、AIなどによる予測や導き出された結果に基づき、日々の暮らしで利用する新たなサービスが提供されます。

このような社会の実現や、ウィズコロナ時代の課題解決のため、未来を見据えたまちづくりが必要なのです。



### いつでも窓口



24時間受付のネット窓口が当たり前となり、レストランの中などどこにいても手続き可能に。画面を触れると現れる忠実で有能なロボットにやりたいことを伝えれば、AIが自動で準備。

### 全自動農村



農業などの仕事はドローンやロボットが担い、人手不足や高齢者の負担を解消。生産性が高まり、景観も維持。

### 【関連サイト】

○内閣府

Society 5.0 関連ページ ▶



○(一社)

日本経済団体連合会

Society 5.0  
- ともに創造する未来 - ▶▶



コンセプト・ムービー ▶▶▶  
(YouTube)



### MaaS(ムーブ:Mobility as a Service) の実証実験

それらの課題解決に地域住民が積極的に取り組んできました。その一つが、公共交通サービスが届かず有効な交通手段がなく困っている住民への住民による地域内無償送迎サービス「らくらく送迎」です。地域住民を主体として民間事業者、大学などが協力して取り組んできたこの活動が、日本版MaaS推進・支援事業として国や府からの支援を受けることになりました。

MaaSとは、さまざまな種類の交通サービスを、利用者の希望に応じて利用できる一つのサービスに統合する技術で、未来の社会における交通サービスに欠かせない技術として注目されています。12月1日からは、現在実施している「らくらく送迎」が、地域課題解決に向けた実証実験としてさらにサービスを拡大します。本市の未来を見据えたまちづくりが、間もなく始まります。

# 三 一 住民主体のまちづくり

## 三 伏尾台コミュニティの取り組み

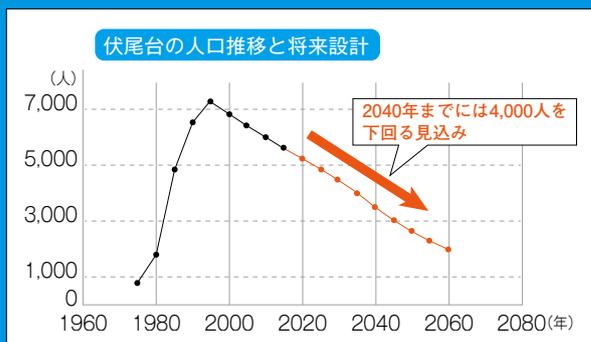
伏尾台の住民によって設立された「(一社)伏尾台コミュニティ」では、地域内の活性化・課題解決に向けた活動として、地域内無償送迎サービス「らくらく送迎」をボランティアで運営しています。

しかし、地域内での自由な移動の実現には、多様な移動手段を活用するための仕組み作りと、それぞれの地域にあった交通手段の構築が必要です。

また、継続してサービスを提供できる体制づくりのため、地域活性化と財政負担の軽減も視野に入れて、住民・行政が一体となり大学・企業を巻き込み取り組んでいます。

### 伏尾台の現状

- ・世帯数：約2,300戸
- ・人口：約5,000人
- ・高齢化率：約42%



### 取り組みの変遷

2018年10月

#### シェアリングエコノミー

総務省の事業に採択され、住民ボランティアドライバーによる送迎サービスの実証実験を実施

2019年3月

#### (一社)伏尾台コミュニティ

産官学連携の「池田市研究×まちづくりサロン」を通じて集まった大阪大学やベンチャー企業などを中心に、はぐのさと(旧伏尾台小学校)に拠点を置くなどし、地域の維持・発展のための活動を開始

2020年1月

#### らくらく送迎



そして今年度、国土交通省と大阪府の事業に採択され、送迎サービスをさらに便利に、さらに使いやすくする取り組みを開始

#### 普段の取り組みの様子



### MaaS実証実験、ぜひご利用ください

平成30年10月の実証実験では、1回250円の有償送迎で実験期間も短かったことから、多くの方にご利用いただく結果とはなりませんでしたが、地域での助け合いのために私たち地域住民が無償で取り組んでいる「らくらく送迎」が持続可能なものとなるよう、国や府の補助を受けて再び実証実験を行います。

伏尾台に住んでいる皆さまをはじめ、多くの方に体験いただきたいと思います。ぜひご利用ください。

今後はMaaSをはじめ、グリーンスローモビリティの導入や自動運転など最先端を走るまちをめざし、また市の課題解決のモデルケースの一つとなるよう、取り組みを続けていきます。



「らくらく送迎」ドライバーの皆さん

# 12月1日から実証実験スタート！ 伏尾台から始まる 未来への挑戦



市内で最も急速に高齢化と人口減少が進む伏尾台。地域内は傾斜が多く、高齢者にとってはスーパーや診療所、最寄りのバス停などへの移動が負担となっていました。

その課題解決のため、12月1日(火)から MaaS による実証実験が始まります。

## らくらく送迎×MaaSで広がるサービス

現在実施されている「らくらく送迎」サービスにIT技術を活用し、12月1日から順次サービスが拡大します。

### 予約・配車の 負荷軽減

- ・電話のみだった配車予約が、専用アプリや予約リモコンから可能に
- ・乗り場へ行くだけで配車依頼が完了
- 「スマートバス停」を設置
- ・既存の公共交通の利用促進

- ・道路に感知センサーを設置し、歩行者飛び出しを警告
- ・非接触検温による新型コロナ対策

### 地域の 安全・安心

### 安否確認・健康 づくりサービス による生活支援

- ・住民の外出支援
- ・高齢者、児童見守りサービスを配布
- ・移動履歴からお出かけ提案、健康づくりコンテンツ提供
- ・移動保健室による健康支援サービス



## 利用概要

〈実験期間〉12月1日(火)～令和3年2月28日(日)

〈対象地域〉伏尾台地域内

〈利用方法〉右の二次元コードから利用登録後、専用アプリ・予約リモコン・電話で予約できます。



〈問い合わせ〉(一社)伏尾台コミュニティ  
☎743・6384

## 説明・登録会を開催！

〈日時〉

12月1日(火)・5日(土) 午前9時～午後5時

〈場所〉

伏尾台コミュニティプラザ前(広場側)

〈内容〉

らくらく送迎のご案内・登録受付  
12月1日開始の新サービスの案内  
その他質問・疑問など

☎2・3ページはICT戦略課☎754・6215、4・5ページは交通道路課☎754・6281